

防災活動をどう助け合い活動に結び付けるか ～助け合いマップの活用など～

提 言

防災は世代を越えて
地域がつながるきっかけとなり、
実態把握は弱者へのまなざしと
配慮の力を育んでいく

登壇者

【進行役】	菱沼 幹男氏	日本社会事業大学社会福祉学部准教授
	野村 恭代氏	大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授
	水嶋 順二氏	京都市春日学区自主防災会会長
	仲 峰子氏	豊中市刀根山校区福祉委員会会長
	浜 尚美氏	竹の台地区防災・防犯福祉コミュニティ会長

■ 寄せられた声から

- 浜さんの地域は、私が住む地域とよく似ています。大変勉強になりました。

議事要旨 菱沼 幹男氏

「助け合い活動の担い手が高齢化している。新たな担い手に協力してもらうには、どうしたらよいか」という声が各地で聞かれる。いかに新たな担い手とつながることができるか。そこで重要なキーワードとなるのが「防災」である。

本分科会では4人の登壇者の報告を通して、防災活動がどのようにして助け合い活動につながっていくのか、その際に大切なことは何かを取り上げた。

まず、春日学区自主防災会の水嶋順二さんからは、京都市上京区の春日学区での福祉防災地図の作成、防災集会、防災教室、防災訪問、マンション防災訓練、防災総合訓練、避難所設営等、多様な防災活動について報告があった。福祉防災地図は本人から同意が得られた情報のみ掲載し、その他の情報については、スタッフが把握するにとどめるようにしており、プライバシーへの配慮のもとで行われていた。春日学区では、防災は福祉とともに自治活動として一体的に取り組むことを重視している。

次に、竹の台地区防災・防犯福祉コミュニティの浜尚美さんからは、神戸市西区竹の台地域での組織設立の経緯とともに地域おたすけガイドの作成、避難所運営マニュアル策定ワークショップ、一斉避難訓練、まちづくりアンケート等の取り組みについて報告があった。このアンケートの配布は各自治会の協力を得て実施し、調査項目には防災関連も含まれている。アンケートや多様な活動を通して防災に対する意識を高めるとともに、住民による災害時要援護者へのまなざしを育んでいる。

そして、豊中市刀根山校区福祉委員会の仲峰子さんから、避難行動要支援者安否確認事業の取り組みについて報告があった。刀根山校区では見守りが必要な方を要（かなめ）さん、支援者を見守りさんと呼び、緊急地震速報震度5弱以上で安否確認をするというルールを作成している。また、要さんへの聞き取り調査やIDカードの作成を通して実態把握に努めており、平成30年6月の大阪府北部地震（震度6）に際して実際に安否確認を行った際の課題についても報告いただいた。

最後に、大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授の野村恭代さんからは、阪神淡路大震災や東日本大震災では地域のつながりによって避難できた方々が多かったというデータを踏まえて、小地域でのご近所つきあいの実態を把握し、そこから歩いていける範囲での支え合いの仕組みづくりや、平時から家族内だけでなく地域内、自治会内でも防災について話し合う機会を持ったり、社会福祉の観点から防災を考えることの重要性についてお話しいただいた。

本分科会では、防災をきっかけとして住民同士が、①集まる場、②学習する場、③ニーズ把握の機会、④訪問する機会を設け、それが地域のつながりを育み、支え合う力へとになっていくことを学ぶことができた。「防災は世代を越えて地域がつながるきっかけとなり、実態把握は弱者へのまなざしと配慮の力を育んでいく」ことを提言したい。

アンケートの結果 参加者概数：140名 回答者数：110名

